

外郭とレコーラウーニ

大きな「外郭」の用途はよく分かっておらず、現在考古学的な発掘調査が進行中です。一軒の住居および他の建造物の跡が発見されています。外郭の石垣は今帰仁の他の場所よりも低くなっており、この場所の重要性が比較的低いことを反映しています。

沖縄の重要な場所が大抵そうであるように、今帰仁城も社会的・経済的・宗教的な重要性を持っています。今帰仁城が政治的・軍事的な機能を果たさなくなって久しいものの、この城は今でもノロと呼ばれる世襲制の女性祭司が主導する宗教的な儀式に使用されています。

レコーラウーニは控えめながら重要な信仰の場所です。ふたつの簡素な土盛り（ウーニ）は舟を表しており、ひとつは今帰仁、もうひとつは本部と名付けられています。築城以来毎年、夏季に行われる、故人を偲ぶ仏教の祭り（旧盆）の後に海の神を祀る特別な儀式が行われてきました。御舟漕ぎ（ウーニフジ）と呼ばれる儀式では、それぞれの土盛りに三本の竹の棒が置かれ、それから参加者がそれらを櫂を漕いで海を渡るようにしながら平郎門に進みます。琉球における文化と信仰の多くの側面と同様、この儀式の起源は不明ですが、この儀式は古来から続く人々と海の繋がりと彼らの航海の記憶を祝うものです。